

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200620		
法人名	社会福祉法人 むべの里		
事業所名	グループホーム際波		
所在地	宇部市大字際波672-3		
自己評価作成日	平成22年10月23日	評価結果市町受理日	平成23年3月14日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者、職員共に全員が明るく、職員は老若男女配属されている。自治会にも加入し、地域とも連携を行い、災害時などは施設を開放している。スキップも日常生活の中で、手をつないだり一緒に話をする時間を大切にしています。地域住民の一員として、併設の通所介護とも交流会も積極的に取り組んでいる。家庭の延長として、夕食を作ったり、外食にも出かけたりしている。ご家族も面会も頻繁に見られ『ここに来るのが楽しみ』と言われるご家族もいらっしゃる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念の下、地域とのふれあいを大切にされ、敬老会等の地域行事への利用者の参加、事業所主催のお茶会や学習会などへの地域の人々の参加などで交流されたり、毎日散歩に出かけて近所の人との会話を楽しめたり、こども110番への協力、事業所通信の地域への回覧など、地域とのかかわりを深める取り組みをしておられます。日記を書いたり、転倒予防シート縫い、野菜づくり、掃除、おやつづくり、花のみずやり、手工芸、週1回の交流会のお世話、大正琴、茶道等、利用者一人ひとりが出来ること、したいこと、楽しみごとの場面作りをして、日々の生活が張り合いや喜びのあるものになるように工夫されています。職員や家族、利用者とのコミュニケーションがよくとれており、外食や馴染みの場所への外出、外泊など家族の協力を得ながら取り組んでおられます。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あまり共有できていない為、職員で協力し合い、唱和している。	「地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支える」という地域密着型サービスとしての理念を玄関に掲示して、ミーティング時に唱和し共有に努め、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入し、ゴミステーションの掃除・敬老会への参加・子供110番への協力などもしている。	自治会に加入し、町内清掃や敬老会等の地域行事にも参加している。法人主催の夏祭りへの参加や毎日散歩に出かけ近所の人と会話をしたり、事業所通信の地域への回覧、事業所での敬老会や学習会に家族や地域への参加を呼びかけ多くの参加者がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板に一口メモを掲載し発信している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ヒヤリはつとを少しずつ書いてはいるが、まだ特定の職員しか書いていない。少しずつ取り組んでいく。	評価の意義を管理者が説明し、それぞれの項目について、各自から聞き取りまとめている。結果は会議で話し合い、できるところから具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族への参加をお便りで呼びかけ、意見を参考にして会議を開催している。	家族、利用者や地域住民、地域包括支援センター、市職員が参加し定期的に開催している。事業所と地域との交流の促進(非常時の対応、勉強会への参加、地域通信等)、施設内点検等について意見交換をして、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に伝えている。	介護保険課担当者と日常的に連絡を取り合っている。月2回介護相談員の来訪時には相談をしたり情報交換をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法律は理解できてはいないが、身体拘束はしておらず、日中も玄関は開放している。	機会あるごとに管理者は身体拘束を具体的に説明し、玄関の施錠やスピーチロックについての勉強会を行い、正しく理解しケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今後、学習する予定。防止については今後も努めていく。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習する機会は設けたが、今、必要な入居者がいないので、今後、活用する。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際などに、十分に説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿や介護相談員にも来園してもらい、意見をしやすい環境づくりをしている。	運営推進会議や家族の来訪時に介護相談員に来所してもらう等意見や要望を出しやすい環境作りをして、運営に反映させるように努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、意見を言ったり、職員会議で話し合ったりしている。	管理者が年1回職員と面談し、意見を聞き、必要な意見を理事長に報告し、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	法人全体でキャリアパスを導入し、職員の能力向上に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外では研修に参加する機会が無いので、職場内で担当を決めて行っている。	法人内研修や事業所内研修は計画的に実施され、グループホーム連絡会の勉強会にも参加している。外部研修に参加する機会が少ない。	外部研修参加の機会の検討
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入し、勉強会や懇談会などに参加するようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居され1ヶ月は特に注意して話をしたり、ご家族の面会もよくしてもらっている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約・または入居時などに質問を受け、不安のないように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な事を導入し努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何でも話せる関係作りを職員・入居者共に築いている。		
20		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば連絡し、相談したり報告し、共有している。		
21	(10)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、外出や外泊なども積極的に取り組み、住んでおられた自宅のご近所の方へも運営推進会議への参加を呼びかけたりしている。	ふるさと訪問やこれまで住んでいた家の近所の人に来訪してもらったり、いきつけの美容院や寿司屋等への外出、外泊など馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
22		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時間があれば自分たちで、よく話をしている。		
23		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会などに行ったり、家族も来園され、現状について話などをされる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に、本人に話をしている。	利用者の言葉や言葉にしにくい思いを、日々の行動や表現からくみ取り把握している。	
25		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	急激な生活の変化にならないよう、少しずつ新しい環境に馴染めるよう、努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子を観察したり、会話をして把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族ともよく話をして作成している。	管理者、担当職員を中心にケアカンファレンスを月1回行い、モニタリングし、利用者、家族とも相談して、現状に即した具体的な介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や連絡帳を使って、情報の共有に活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医をつくり、取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源をあまり把握しておらず、機会が無い。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談して主治医を決め、安心した生活が送れるように支援している。	利用者や家族の希望を大切にして、かかりつけ医を決めている。家族と相談して受診や情報の伝達方法を決め、協力医による2週間に1度の往診や緊急時の受診もできるよう適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録を見たり、来園時に相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的にお見舞いに行ったり、その際に看護師と相談している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で相談している。住み替えについても、スムーズに行えるよう努めている。	早い時期から段階的に医師や利用者、家族と話し合い、方針を共有している。病院等への移行は家族の希望にそっている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	救急法や応急手当を学習する機会がない為、今後、学習会を開く。	ヒヤリはっとの報告をしている。実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練も行われていない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	何かあれば、自治会長・民生委員・地域住民が協力体制をとってもらっており、連絡するようになっている。	年2回(昼夜を含めて)消防署の協力で避難訓練を実施している。非常時には自治会長、民生委員、地域住民の協力体制が出来ている。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけているが、状況によっては馴れ合いになってしまっている。	利用者尊敬の念については事業所の基本理念にうたっており、プライバシーを損ねない言葉かけや書類保管等に心がけている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけてはいるが、心身の状況に配慮して対応している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ペースには合わせられていないが、集団生活としての生活ペースを大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装を選んだりしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は各自で担当が決まっており、準備されたり、食事づくりも一緒に行っている。	朝食は毎日、夕食は週1～2回事業所で作っている。畑で出来た食材や利用者と買い物した食材を基に、利用者の希望や好みに合った食事を提供している。出来ることを一緒にしながら、食事が楽しめるよう支援している。。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に、献立は管理栄養士が作成しているが、量については職員で調整を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。訪問歯科による口腔ケアを利用している方もいらっしゃる。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	パットの大きさや種類を人によって変えている。声かけの必要な方には声かけをしている。	職員は、利用者の排泄パターンをよく把握しており、必要な利用者には声をかけ、一人ひとりにあったトイレ誘導をして自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	天気のよい日には散歩に行ったり、水分補給や顔の体操などにも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯については、職員の都合で行っている。	入浴は毎日可能で、14時30分～17時の間に一人ひとりゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。入浴したくない人には、タイミングをみはからい時間をずらすなど工夫しながら支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて声かけをしているが、よく休まれるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状況に応じて対応している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫煙やプランターへの水やり、買い物に全員で行ったりしている。	日記を書く、野菜作り、浴室の転倒予防シート縫い、掃除、おやつ作り、コーヒーを出す、花の水やり、手工芸や週1回の交流会のお世話、大正琴、茶道等一人ひとりの出来ることを活かし、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の人とは出掛けられないが、ご家族が面会に来られた際には、お出掛けをお願いしたりしている。	散歩、スーパーでの買い物、デイサービスとの交流、季節の花見(桜・コスモス等)や家族との外食等家族やボランティアと協力しながら外出を楽しめるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っておられる方もいらっしゃるが、使われることはない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけたいと言われた際には対応している。年賀状やちょっとした時などお手紙を書いてもらい、郵送している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	貼り絵などを毎月しており、季節に応じた貼り絵を入居者と一緒に作成している。トイレには扉がない。	共用空間は明るく、壁には手作りカレンダーや作品(絵・習字)が貼られ、居間と一体となったキッチンは生活の場となっており、料理の匂いや包丁の音が自然に聞こえる。窓からは田んぼや木々の緑が季節の移り変わりを感じさせ、心地よい空間になっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	そのような場所がない為、入居者同士で居室でお話したりしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも相談して、使い慣れた物をそのまま使用してもらうようお願いをしている。	利用者の馴染みの家具、仏壇、ぬいぐるみ、利用者が作成した作品等好みの物がきちんと整理され、本人らしい落ち着いた居室となっている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声かけは行っているが、本人の意思を配慮している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム際波

作成日：平成 22年 10月 29日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	ヒヤリはつとを少しずつ書いてはいるが、まだ特定の職員しか書いていない。少しずつ取り組んでいく。	いま以上に、ヒヤリはつとを全職員で書くようにし、事故を未然に防ぐ努力をする。	毎月、会議の際に、どのようなヒヤリはつとがあったのかを報告する。 出勤者同士で、一日の出来事を振り返り、ヒヤリとしたことや、はつとしたことがないかを話してみる。	12ヶ月
2	3	回覧板に一口メモを掲載しているが、運営推進会議に呼びかけても、地域の方々の参加が少ない。	少しずつ地域の方々が気軽に来園してくれる環境づくりをする。	民生委員さんや自治会長さんにも協力してもらい、公開講座の際には、地域の方にも参加してもらう。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。